

勤儉尚武 勤儉尚武

vol.25

1. 【蓮の花】

7月15日から8月1日まで17日間オーストラリアのメルボルン・ブリスベン・シドニーに合気道の指導に行ってきました。詳細は後ほど述べますが、飛行機の中で読もうと思って持って行った本にとっても共感を覚える内容の事が書いてあったので、紙面で皆さんと共有したいと思います。

『蓮（ハス）に学ぶ』

題名から、内容が想像できるかもしれませんが、蓮の花が日光などによって成長し、泥の中から芽を出し、水面から立ち上がり、やがて綺麗な花を咲かせることを例えて、煩惱や苦しみ（泥）の暮らしにあっても、お釈迦様の教えによって目覚める事（蓮の花）ができるという仏教の教えに用いられます。



【蓮に見られる三つの徳】

しゅしふしつ おでいふせん けかどうじ
種子不失・汚泥不染・花果同時

1. 種子不失の徳

60年ほど前に、千葉県の弥生時代の遺跡から、大賀一郎博士によって発見された2000年以上前の蓮の実が、再び生育し美しい花を着けたことは、「大賀ハス」としてよく知られています。

このように、何年経っても発芽の力を失う

ことがないハスの種子の驚異的な生命力は、私たちの心に秘められた清らかな心が不滅である事に例えられます。これを「種子不失の徳」と言います。とにかく道は開ける事を信じて、やけにならず、静かに自分の心を見つめなおす事が大切なのです。

2. 汚泥不染の徳

【泥にあっても泥に染まらず】

泥の中にあっても、泥から生まれたとは思えぬほど美しい花。私たちの人生も同じです。たとえ、どれほど煩惱にまみれた暮らしであったとしても、煩惱の泥に染まることなく、美しい心の花を咲かせることが出来ます。また、泥があってもこそ、蓮はあれほど綺麗な花を咲かせることが出来るともいえます。清水には蓮の花は咲きません。私たちの人生を振り返れば、苦勞し悩む日々があればこそ、他人の苦勞も理解でき、やがて豊かで静かな心を持つことが出来るでしょう。

私たちの持つ煩惱の代表として、貪欲がありますが、あらゆるものを貪り求める心です。貪欲は必ず苦しみを伴うもので、どこであろうと欲のあるところに苦しみが無い事はありません。自己中心的な欲求を続けていく限り、求めても得られない苦しみがあるように、苦の壁に突き当たる事は間違いありません。しかし、この貪欲というのは、自分の事だけに囚われる欲です。一方、自分自身のことは次にして、常に人々の役に立つよう尽くし、それを通じて自分の心を向上させていく「大欲」というのがあります。欲求そのものを否定するのではなく、欲求が持っているエネルギーを広く大きなものに振り向けていく事が大切なのです。

この泥があればこそ咲け蓮の花（蕪村）

この句の通り、煩惱があるからこそ悟りもあるのです。悩み苦しむ暮らしの中からこそ、きれいな心の花を咲かせることが出来ます。

3. 花果同時の徳

蓮は、蜂の巣に似た形の花托であることから、ハチス、…ハスとなったと言われますが、開いたばかりの花の花托の中に、すでに小さな種が宿っているのです。花と果実が同時にできることから、蓮のこの特質を「花果同時の徳」といいます。

道を求めようと発心した時、すでに悟りは約束されているということに例えられます。逆の事を考えてみると、発心しない限り、結果はありません。花をつけなければ、実はない。さあやるぞ、と物事に取りかからない限り、何も始まらないし、当然、出来上がる事ありません。

花をつけること、即ち発心する事はとても大切な事です。「初志貫徹」という言葉がありますが、初めに思い立った志をくじけることなく最後まで貫き通す事は、なかなか難しいものです。しかし、願いを持ち続けることにより、あらゆる物事は成就し、さもなければ何も生まれません。「願いは叶う」ものです。

さて、以上のようなことに共感を覚え、胸に抱いてオーストラリアに降り立ちました。2番目の訪問地であるブリスベンのセミナーで、ベトナムからの留学生に出会いました。セミナー会場であるグリフィス大学で勉強しているそうです。



セミナー参加者は皆熱心に稽古に望んでいましたが、彼の稽古に対する熱意は特に目を見張るものがありました。午前中の稽古が終わると私のほうに歩み寄り、真剣な眼差しでい

くつか質問をしてきました。

「道場では、争わない心や穏やかな心を習っているし、自分もそのことがいいと思っています。でも道場から一歩外に出ると現実とは違います。大学の友達や町のオーストラリア人は身体も大きいし、空手やテコンドーなどをしていて筋肉も立派だし、『お前は身体も小さいし、合氣道をやっているから彼女も出来ないんだ』などと言ってきます。先生に相談したら、ただ気を出しなさいと言われるだけで、どうしていいかわかりません」

「オーストラリアは豊かだけど、ベトナムは貧しい国です。全ての価値観が違うのです」などなど、日々苦しんでいると言うのです。

聞いていて可哀そうなほど悩んでいる様子でした。そこで、前述の蓮の話に基づいた話をしてあげました。彼はまだ22歳です。そんな若い時から悟っていたら怖いですね。悩んで当然です。自分の信じる道と現実のギャップが余りにも大きいので戸惑うのでしょうか、道場で稽古を続けながら、道場の外では心の修業をすることで成長していく事を伝えました。彼は私の話を聞いて満面の笑みを浮かべていました。そして、午後の稽古が終わる時に、参加者にも少し形を変えて同様の話をし帰ってきました。

私も人様には言えないような苦勞をこれまでに何度も経験してきたので、このような話が出来たのだと思います。苦難の中にいる時は確かに辛いですが、乗り越えた時に一回り大きく成長できるし、人様の心に響く言葉を発する事ができるのです。皆さんも心の片隅にこのことを置いておいてください。そして、人生の壁にぶつかった時、思い出して乗り越えてください。

ただ、改めて英語の必要性を強く感じました。もし私が英語を話せなかったら、私の経験や思いを相手に伝える事はできないし、このようにオーストラリアに合氣道を指導に行く事もありませんでしょう。皆さんも来年5月のフレンドシップセミナーのためにも英語に関心を持ってください。

2.【子供合宿】

7月11日(土)・12日(日)に昴学園高校の柔道場で子供合宿を行ないました。140畳の大きな道場で、しかも山に囲まれた静かな環境で稽古ができ、とても実りある合宿でした。

約20名の小・中学生が参加し、お手伝いの7名の大人の方にも参加していただきました。「上の者が下の者の面倒を見る」当会の基本方針が定着してきました。これも皆様の惜しみないボランティア精神の賜物によって支えられています。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。



1日目の夜は、奥伊勢フォレストピアのコテージと集会所に宿泊しました。夕食には戸外でバーベキューを頂きましたが、大変美味しく、食べきれないほどでした。大人も子供も大満足でした。夕食後、ホテルの支配人の案内で、ナイトウォークを楽しみました。山道を進んでいくにしたがって、あたりは真っ暗

になりましたが、所々で蛍が光を発していて幻想的な景色を堪能できました。特に、源氏蛍の季節は終わり平家蛍の季節ですが、一匹だけ源氏蛍が残っていて、余りの違いに一同驚きました。その後花火をして、ホテルの温泉に入り床につきました。



今回は、コテージを必要数だけ確保できなかったため、男子は集会所に宿泊しました。まず布団敷きから始まりましたが、シーツを掛けることも経験したことが無い子供が大部分で、大混乱の中大人が少し手を貸して何とか納まりました。夜が更けてきても眠る気配は全く無く、益々興奮が高まり大騒ぎをしていたので、「眠りたい人もいるから、静かに遊ぶよう」と言うと、きちんとできた事に驚きました。

私は監督をする意味から、玄関付近に布団を敷いて寝ていたのですが、夜更かしをしている子供達は何度となくトイレに行くのですが、私が横になっているところを平気でまたいで行くので、叱ってやりました。と言うより、「人をまたぐことは良くない事だ」と教えたかったのです。個人の部屋を与えられた生活しか知らないわけですから、経験を通して教えてやらなければわからないと思います。こういう所に合宿の意義があるのだと思います。

さて、2日目は稽古を離れてフォレストピアの敷地内を流れる川で遊びました。とても綺麗な宮川で自由に遊ぶ姿は何と微笑ましい事でしょう。保護者の方々にもご覧に入れたかったくらいです。

そして、休憩を兼ねて差し入れをしていただいたスイカを使って「スイカ割り」をし、大変盛り上がりました。割れたスイカに子供たちはハイエナのように群がり、手づかみで思い思いスイカを頬張っていました。子供たちのたくましさを感じた場面です。



【仲良く手をつないで、川の中へジャンプ！】



【野生児になった子供たち】



【スイカ割り。見事命中！】



【ハイエナのようにスイカを手づかみで】

川遊びが終わり、集会所で昼食のカレーライスを食べました。皆で静坐をして「いただきます」と言った瞬間、食べ始めるかと思ったら、高学年の男子はカレーライスが盛られたお皿を持って炊飯器とカレーの入った鍋の所に行列が出来ました。「これだけでは足りない」と思ったのでしょう。ここでも子供たちのたくましさの一面を垣間見ました。

以上、子供合宿の概略を書きましたが、「個」が重視される現代の風潮の中、集団生活によってしか身に付かない「たくましさ」を子供たちから引き出し、生きる力を身に付けさせることの大切さを改めて感じさせてくれました。

これからも、このような視点で子供合宿を実施していきますので、一人でも多くのボランティアの大人の方にも力を貸していただきたいと思いますので、ご協力をお願いします。



【まるで本当の家族のよう！】

Australia Visit Australia Visit

去る7月15日から8月1日までオーストラリアへ合気道の指導に入って参りました。

【メルボルン】

7月18日(土)・19日(日)にメルボルン市内のホーソンという高級住宅街にある道場でセミナーを行ないました。いつも行なう場所なのですが、ここはキャサリンという女性でプロの合気道家が経営している道場です。



【太刀取りを練習するキャサリンさん】

ここで稽古している生徒の他に、ベントレーという町とニューポートという町の道場で稽古している人たちが参加してくれました。



【196cm/135kgの巨漢と小人のような日本人】

日本にいと、私自身の体格が大きいほうなのですが、海外に行くとむしろ小さく見えます。大きな体の人を無理なく投げるためにはやはり正しい技が要求されます。その意味で、私にとっても大変良い練習になりました。

【ブリスベン】

7月25日(土)・26日(日)にブリスベンにあるグリフィス大学の道場でセミナーを開催しました。



【多数が参加を希望。しかし、会場の大きさから40名に限定】



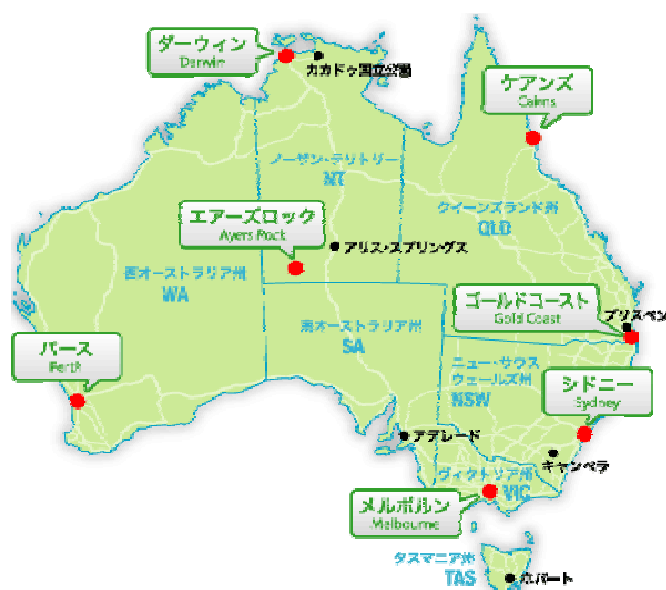
【ここでも巨漢が！でもとても優しい人です】身長差を見てください。このような人と稽古をすることによって、肉体的力を使って投げる事がいかに難しいかに気づき、正しい技の必要性を実感します。2010年5月に行なう予定のフレンドシップセミナーに是非参加してください。世界トップクラスの先生の御指導のもと、70名以上の外国人が参加します。



【杖投げの受けを取る、賢ちゃんに似ているクリス君】

この道場は、オーストラリアの中でも最も歴史が古く、大きな道場の一つです。昨年の発表会に参加したダニエル氏が責任者で、私のホストをしてくださいました。彼はこの大学の教授で、スポーツ科学を専門としています。スポーツ器具に関する特許をたくさん持っていますが、大学から研究費を貰っているので全くお金にはならないそうです。でも、今年からインドのメーカーと契約を結ぶ予定で、何度もインドを訪れています。滞在中、来年のフレンドシップセミナーについて詳細の打ち合わせをしました。企画・立案の時からずっと協力をしてくれています。

また、この大学で合気道のクラブを創設したメンバーの一人でアデレード在住のジョン・ウォード氏もセミナーに参加してくれました。



飛行機で3時間ほどです。彼も我が家に2回来ております。3年ほど前の『勤儉尚武』にも登場しました。大変な日本通です。

また、まだ日本には来ていないけど、私とかかわりの深い方がたくさん来年のフレンドシップセミナーに参加されます。今回のオーストラリア訪問は、プロモーションも兼ねておりました。あと8ヶ月ほどで多くの知人が日本を訪れます。皆さんも少しでもいいですから英語に興味を持って、意思の疎通が少しでも出来るよう頑張ってください。

【シドニー】

28日(火)から31日(金)までは最後にシドニーで遊ぼうと思ってホテルを予約しておきましたが、メルボルンとブリスベンの友人たちが、シドニーの指導者たち数名に電話で連絡を取り、私がシドニーに行くことを告げました。すると2人から電話があり、会いたいというのです。一人は予定が合わず、丁重にお断りしたのですが、もう一人は3年前にアデレードでのセミナーであったことがあるので、夕食を一緒に食べる事になりました。すると、「明日稽古があるから来て欲しい」と言われました。結局遊ぶはずだったシドニーでも合気道の稽古でした。

振り返ってみると、10年前に初めてアデレードを訪れて以来、少しずつですがオーストラリアに多くの人脈ができた事を嬉しく思います。来年5月のフレンドシップセミナーを契機に、さらに多くの合気道愛好家が日本とオーストラリアを相互訪問できたらいいと思います。そのためにもフレンドシップセミナーを成功させなければなりません。どうか皆さんの力をお貸しください。そして、いつか私と一緒にオーストラリアに行きましょう。